

# レスキューICSI 実施に関する説明書・同意書

レスキューICSI とは、

体外受精（IVF）を行った卵子において受精の反応が見られない場合に、その卵子に対して顕微授精（ICSI）を追加実施する技術です。通常の体外受精では、卵子と精子を同じ培養液中で一定時間培養し自然受精を試みますが、様々な要因により受精が成立しないことがあります。IVF における一般的な受精率は 60～70%程度ですが、患者様によって個人差があり、中には IVF を実施しても受精しない患者様もいます（IVF 受精障害）。レスキューICSI は、このような場合に卵子を無駄にせず、受精の機会を増やすことを目的として行います。

## 1) 実施の方法とタイミング

- ① 通常の IVF を一定時間行います。
- ② IVF 後の卵子を回収し、受精の反応が起きているかを確認します。
- ③ 受精の反応が見られない場合、時間を置いて再度確認をします。
- ④ 再確認でも受精の反応が見られない場合、ICSI を実施します。

## 2) 対象

以下の条件に該当する場合、レスキューICSI の対象となります。

- ・ 通常の IVF にて、すべての卵子において受精の反応が見られない場合
- ・ 通常の IVF で受精の反応が見られる卵子が半数以下、かつ Split で通常の ICSI を実施していない場合

ただし、最終的には胚培養士が卵子の状況を総合的に検討し、実施するかを判断します。実施の判断については、胚培養士に一任いただきます。なお、レスキューICSI のご希望がない方には実施いたしませんのでお申し出ください。

## 3) リスクや注意点

レスキューICSI には以下のようなリスクや注意点があります。

- ・ ICSI 操作により卵子へ機械的なストレスがかかる可能性があります。一般的な ICSI の変性率は 4～5%程度です。その他にも、通常の ICSI と同様のリスクがありますので、別紙「顕微授精に関する説明書」を参照ください。
- ・ 通常の IVF による受精作業後に ICSI を実施するため、すでに精子が卵子内に進入している可能性があります。その場合、ICSI によって追加で精子を注入することになり、人為的に多精子受精が生じるリスクがあります。多精子受精卵は染色体異常（三倍体など）を来すため、胚移植には使用できません。
- ・ IVF 後に受精の反応が起きているかは、採卵当日に第二極体の放出、及び紡錘体の動態を指標として判断しますが、本当に受精しているかは採卵翌日の前核形成までは確認できません。採卵当日中に受精有無を完全に判断するには限界があります。そのため、**わずかでも自然受精の兆候を認める場合や、精子の進入を疑う場合は、レスキューICSI は行いません。**
- ・ レスキューICSI は通常の IVF を行った後に実施するため、受精のタイミングが最適な時期から遅れる可能性があります。通常の ICSI と比較して、受精率の低下、胚の発育不良が起きる可能性があります。その結果、移植可能胚を得られないことがあります。そのため、精子所見不良で最初から ICSI 適応の患者様や、過去に IVF で受精障害があった患者様は、通常の ICSI を推奨します。

## 4) 費用

レスキューICSI は通常の IVF 費用に追加して費用が発生します。別紙料金表を参照してください。

私達夫婦は、医師やスタッフからの説明と文書によって上記の事項について十分理解し、納得した上で、本治療の実施に同意します。

説明責任者 東京 ART クリニック 院長 小川 誠司  
説明年月日 年 月 日 説明者 \_\_\_\_\_  
同意年月日 年 月 日

住 所： \_\_\_\_\_

夫（診察券番号）： \_\_\_\_\_ 氏名（自署）： \_\_\_\_\_

妻（診察券番号）： \_\_\_\_\_ 氏名（自署）： \_\_\_\_\_